

男女差別・偏見

3年4組10番 壽 亜未
3年4組14番 辻井 陽菜子
3年4組24番 福原 倅
3年5組27番 藤本 柚凪

keyword: 「男性らしい」「女性らしい」

1.はじめに

このテーマを選んだ理由は以前、snsをみていたときに外見についての誹謗中傷や服装、肌の色、男女の差別など色々な人への偏見や固定観念を自分で初めて肌で触れて、もっと個人を自由に表現できるようになってほしいと思ったからである。実際にsnsである人気の男性クリエイターさんがスカートを履いて髪を伸ばしてメイクをしたりしているだけで、「気持ち悪い」や「男なのになんで」といった誹謗中傷を受け、亡くなってしまった方を見て、好きなことを好きにできるように色んな人に知ってもらいたいと思ったからである。

2.序論

私たちが男女差別について知りたいと思ったきっかけは大きくわけて二つある。一つめは、アプリを通して1人のタレント、rさんの投稿を見ていた時だった。rさんは、性別に縛られないジェンダーレスな着こなしで知られ、日本で影響力のあるLGBT（性的少数者）を代表する存在となった。しかし、有名になるにつれて、オンライン上での厳しい中傷や嫌がらせの標的にされ、プライベートや、従来のジェンダー規範に当てはまらないそのあり方を批判されるようになった。rさんは亡くなってしまい、死因は詳しくは明かされていないが、誹謗中傷コメントも要因の一つではないかと私たちは考えた。近年、ネットが普及されてから、誰もが簡単にコメントできるようになった。ポジティブなコメントや投稿が溢れる一方で、ネガティブで相手を批判するようなコメントも増えてしまっているのが現状である。脳科学の研究によると、身体を怪我したときに感じる痛みと、心が傷ついた時に感じる痛みの、脳の領域は同じとされている。よく心が痛む、や精神的暴力と表現されるが、実際に身体に感じる痛みと変わらない。悪意のあるコメントで、相手の顔を見ることも無く自分の顔を相手に見せることもなく簡単に人を殺すことも出来てしまう。そのようなことが起きないためにも、私たちに出来ることを考えたい。

二つめは、ひとつめの理由を通してジェンダー平等の達成に対して、関心をもつようになったからである。ジェンダー平等の達成は、SDGs（持続可能な開発目標）の目標5にも掲げられている重要な国際課題のひとつでもある。世界経済フォーラムが毎年発表している、各国のジェンダー平等を数値化した「ジェンダーギャップ指数」というものがある。

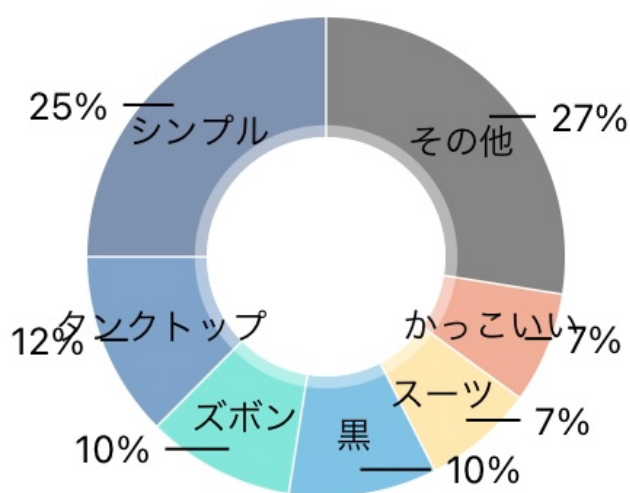
2023年の調査で日本は世界146カ国中の118位で、先進国のなかでは最下位という結果になってしまった。「ジェンダーギャップ指数」は経済、教育、健康、政治の4分野ごとに分かれており、数値の開きがあるほど、男女の差が大きいということになる。日本は「教育」「健康」の2つの分野では世界トップレベルだが、「経済」「政治」の2つが先進国のなかで最低レベルのため、順位を大きく下げている。WEF(政治経済フォーラム)の報告によると、「政治」と「経済」の分野での格差解消が進んでいない。男女雇用機会均等法が制定されてから30年以上が経つが、女性管理職の割合は依然低いままだ。2022年には、「女性活躍推進法」という法律の改正が行われたが、いまだに完全な男女格差解消はできていない。

これから、男女格差がなく誰もが自分らしく生きていけるよう、私たちはこのテーマを探究することに決めた。

3.本論

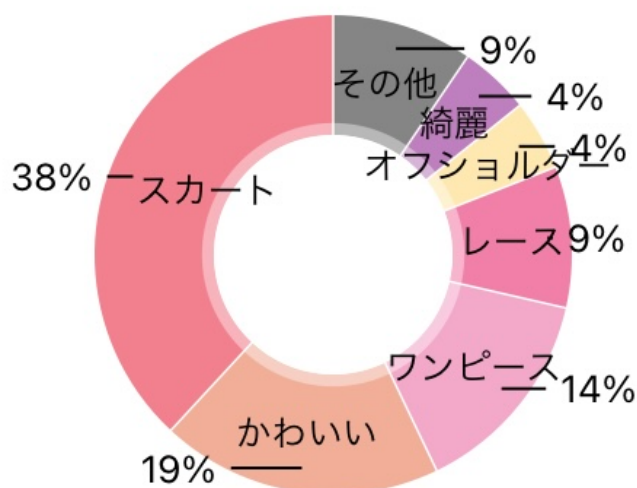
差別とは男女差別、人種差別や偏見など様々な問題がある。私たちは「男性らしい」「女性らしい」という言葉に着眼点を置いた。そもそも「男性らしい」「女性らしい」とはなにか。それを表現するものとして「服装」があると考えた。私たちは学年でアンケートを行った。

男性らしい服装とはなにか。



1番多かったのは「シンプル」次に「タンクトップ」最後に「ズボン」という結果になった。

女性らしい服装とはなにか。



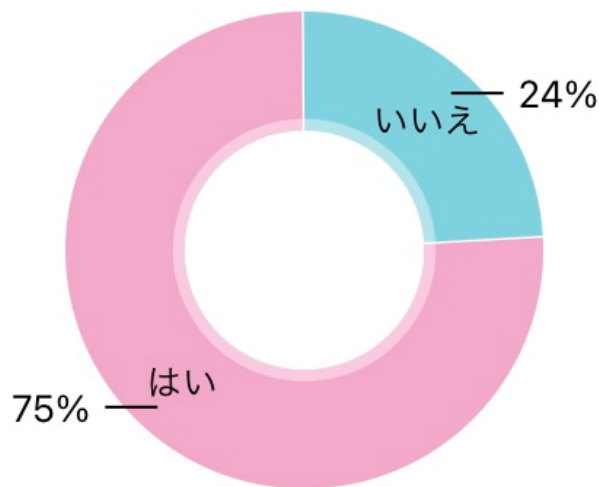
1番多かった順に「スカート」「かわいい」「ワンピース」になった。

では、男性はかわいい服装をしてはならないのか？女性はシンプルな服装をしてはならないのか？決してそういう訳ではない。これは「イメージ」である。その「イメージ」が大きくなり偏見や差別にまで形が変わっていったのではないかと考える。

他にも、「今までどんな誹謗中傷をみたことがあるか」という問いをし、「服装」「体型」「顔」という意見が上がった。これらは全てSNSで見ることの出来る「見た目」についての事だった。

最後に「他人の服装に興味があるか」という問いをした。その結果が下の円グラフである。

他人の服装に興味がありますか？



以上のことから、SNSを利用するのが当たり前の世の中で、流行に乗るためや、参考にするために他人の服装を見る人が多いからだとわかった。それとは反対に、他人の服装に興味を持つということは、差別や偏見が増える原因にもなると考える。現状、InstagramやTikTokには自分の服装を投稿してる人に対して誹謗中傷が絶えない。

SNSを利用することが当たり前の世の中で誹謗中傷することは簡単になっている。この結果から、人々はそれぞれ自分の基準や理想を抱いていて、そこからのずれを少しでも感じてしまうと「おかしい」「違う」と捉えてしまうのでは無いかと考えた。それは、他者に自分の価値観や生き方を押し付ける行為であり、自身の不安やストレスが現れている。理想や価値観を押し付けることで「自分を認めて欲しい」「自分が正しい」「自己肯定感を高めたい」という人間の心理が働いているのだ。

このことから偏見や差別を無くするためには他者への理解をより深めることが必要だと考えた。自分自身に囚われ、自己成長や自らの視野を広げることを妨げてしまっている。

他者を理解するためにはどうしたらよいか。それは他者とのコミュニケーションを通じ、異なる考え方や価値観を受け入れていくことだ。「これは違う、おかしい」と決めつけるのではなく「こういった考え方もあるんだ」と理解することで自己成長にも繋がると考える。

4.結論

身近な差別から徐々に無くしていきたいと意識しながら探求を進めてきたが、昔からの物や人に対する固定観念が現代人の知識となり差別は無意識に起こってしまうことがわかった。そのことから今ある物や人に対する固定観念を無くす必要があると考えた。それを実行するために「差別をなくそう」ではなく、相手に対する言葉、気持ちを考えるという当たり前のことから始めなければいけない。そしてこの学びを活かし、世界中の人たちが明るく楽しく過ごし差別のない世界にすることを実現するために、私は率先して行動、発言できるようになりたいと考えた。

5.おわりに

このような結果から私たちにできることは現代の情報の中心であるSNSを使って差別や偏見、固定観念についてもっと知ってもらうために私達の意見を発信していくことである。アンケートを取った結果からも若い世代からの服装についての固定観念は強いと改めて感じたため、ポスターの作成や服装の自由化に力を入れていきたいと感じた。高校生の私たちにできることは小さなことばかりだが、1人でも多く差別の不誠実さや不平等さに気づいて少しずつ減っていくことを願っている。

6.参考文献

[内閣府ホーム](#) > [内閣府男女共同参画局ホーム](#) > [国際的協調](#) > 男女共同参画に関する国際的な指数https://www.gender.go.jp/international/int_syogaikoku/int_shihyo/index.html
(2024.11.22)

文春オンライン <https://bunshun.jp/articles/-/64288> (2024.11.22)